

## 優 秀 賞

水と共に生きる幸せな未来のために

筑西市立下館中学校

二年 藤 代 かりす

「生きるためには、どんなに汚い水でも飲まなくてはいけない。」この言葉は、私にとって大変衝撃的だった。

水が自由に使え、水のある生活が当たり前だと思っていた私はちょうど一年前、このテレビCMをきっかけに、同じ地球上でも水の環境に格差があることを知り、世界の水事情を自分なりに調べた。発展途上国を中心に水不足や水源の汚染、二十億人以上の人が安全な水を手に入れることができない。不衛生な水で命を落とす。水汲みのために学校へ行くことができないなど、たくさん問題があることが分かり、水を大切に使用しなければいけないと痛感した。そして、自分にできることを考え、節水や汚れ

たものを直接流さないなどを意識して生活するようにしてきた。でも、やはりそれほど危機感を持っていないためか、つつい出しっぱなしや使い過ぎてしまっていた部分があった。

今、世界ではSDGsの取り組みが行われている。私達の学校でも昨年、総合の授業でSDGsについて学んだ。SDGsという言葉は、テレビなどを通して知っていたけれど、詳しい取り組みは知らなかったもので、とても有意義なものであった。17の目標の中で興味をもった分野でグループを作り、最終的にパビリオン形式で発表を行った。私は、今までの経緯から水に関心があったので、「目標6安全な水とトイレを世界中に」を選択した。

水不足や劣悪な水質、衛生施設の不備は医療や教育などに悪影響を与える。命に関わる大きな課題を抱えているのだ。そこで、すべての人々に飲料水、トイレ、衛生設備などを提供することを目標としている。これらの取り組みは、私が衝撃を受けた発展途上国の水問題解決につながっていくものであると思う。

現時点で、劣悪な水質衛生環境下で暮らす人々の多さには改めて驚かされた。特に、トイレがなく、道端や草むらで用を足す人は約七億人もいるのだ。今の日本では到底考えられないことである。この学習会をしていく中で、様々な問題及び水との関わりを考えさせられた。

「水の惑星」といわれている地球。豊富な水と自然豊かな地球も今、危機に迫られている。地球温暖化に伴う気温の上昇などで異常気象が起こり、台風や豪雨、記録的な猛暑が増えたり、水不足など、深刻な影響を与えている。生きていくうえで欠かせないありがたい水も、場合によっては私たちに脅威をもたらしてくる。

日常使う水は、川から取り入れられ、浄水場できれいにされて私達のもとに届く。水は雨や海水などが形を変えて自然の中を循環しているため、森や土の環境が悪くなるときれいな水がつかれなくなるそう。きれいな水をつくるためには自然環境全体を守らなければならない。今問題視されているプラスチックによる海の汚染もその一つであると思う。

一定のサイクルで地球上をめぐるっている水。私達の生活が豊かになった分、使用できる量も質も下がってきてしまっている。限られた水を、私達が大切に使って守っていく必要があるのだ。

SDGs、17の目標はそれぞれが一つの方向から考えるのではなく、すべてのつながりを考えながら取り組むことによって達成するものだと思う。この学習会は、世界の現状を知る最初のステップではあるが、改めて水の大切さや、必要性を知ることができた。ここで知って終わりにするのではなく、次は「考動。」私たちに何ができるかを改めて考えて行動し、美しい地球を守っていききたい。安全な水で、すべての人が幸せになる未来を目指して。